岩田防衛大臣政務官が視察

作戦室において第１師団の現状説明

献花を行う岩田防衛大臣政務官

野外手術システムの展示・説明

化学防護車の展示・説明

第１師団の現状を確認

第１師団は７月２日、練馬駐屯地において岩田防衛大臣政務官による部隊視察を受察した。

当初、駐屯地慰霊碑である留魂の碑について説明し、岩田防衛大臣政務官は、職務に殉じた隊員の御霊に対して献花を行った。

その後、司令部庁舎玄関において記念撮影、庁舎内で懇談等を行い、作戦室において大庭師団長が師団の現状について説明した。

この際、岩田防衛大臣政務官は、災害時における初動対処等に関して熱心に質問をされ、師団長が丁寧に説明した。

また、師団（練馬駐屯地の部隊）の主要装備品として対人狙撃銃、化学防護車、野外手術システム、ＵＡＶ（災害用Ⅱ型）等、装備品の展示、これを使用した市街地戦闘に係る師団の能力について説明した。

最後に、大庭師団長とチャレンジコインの交換を行い、岩田防衛大臣政務官は、練馬駐屯地を後にした。

チャレンジコインを交換する
岩田防衛大臣政務官（右）と師団長（左）

頭号師団

発行元
第1師団司令部
総務課広報班

第１師団
ホームページ
QRコード

師団長要望事項
楽しく全力を出そう！
楽んで全力を出させよう！

防衛大学校学生が部隊実習
知識・技能の向上図る

第１師団は７月２日から25日までの間、防衛大学校第３学年に対して「令和２年度防衛大学校第３学年夏季定期訓練部隊実習」を実施し、幹部自衛官の地位・役割を教育するとともに、部隊の実情の体験により、陸上要員として必要な知識・技能の向上を図った。

当初、訓話において師団長は、学生30人に対し「部隊実習は、初めての部隊経験の場であり部隊の実情、特に隊員の訓練・生活等、現場の真の姿を掴むこと、第１師団の幹部には、原点として部下を死なせないことを心根にすえて、その為に如何にあるべきかを考えよと指導しているので、その実態をよく見て欲しい」等述べた。

訓話をする師団長

師団統制訓練として７月２日から３日にかけて、普通科連隊を除く師団隷下部隊をそれぞれ研修した。

部隊研修前段終了後の４日から23日の間、学生は各普通科連隊において小部隊の行動を理解する目的で連隊実習を行い、徒歩行進、機関銃射撃、地図判読、分隊攻撃、野戦築城、各種火器の射撃研修、服務実習等を通じて、幹部自衛官としての自己修養の資を得たものと思料する。

陣地構築の練度向上を図る
北富士で施設合同訓練　第１施設大隊

第１師団は７月31日から８月７日の間、北富士演習場において第１施設大隊長を担任官として、隷下部隊の陣地構築の練度及び指導能力の向上を図る目的で「令和２年度第２回師団施設合同訓練」を実施した。

１施大は訓練参加隊員を指導要員グループ45名と、小隊長グループ45名に区分して座学及び実習を段階的に実施した。

指導要員グループは、12人用指揮所簡易掩蓋掩壕及び民生品（ソイルアーマー）を活用した車両用簡易掩蓋掩壕（野外通信システムＡＮ車用）を構築し、掩体の防護性、機能性及び秘匿性を重視した掩蓋掩壕の構築要領を修得した。

小隊長グループは、隊力及び器資材を効率的に運用するための工程管理要領として、工程表作成及び修正を実施した。実習後は、各グループごとに概成した掩体を研修して、部隊の陣地強化に繋げる実りある合同訓練となった。

小隊長グループによる座学

車両用簡易掩蓋掩壕

１２人用指揮所簡易掩蓋掩壕

戦闘戦技競技会　４中完全制覇
団結・士気の高揚図る
第１普通科連隊

第１普通科連隊は７月８日から10日までの間、朝霞訓練場において各種事態対応に必要な自衛官としての体力、気力及び闘争心を涵養するとともに、部隊の団結の強化、隊員の士気の高揚を図る目的で「令和２年度戦闘戦技競技会（武装走）」を実施した。

競技会は、３㌔㍍の武装走（１個分隊４名以上10名未満）を実施し、分隊の平均タイムで競う中隊対抗の部、各中隊の本部のタイムで競う中隊本部対抗の部、各中隊の小隊のタイムで競う小隊対抗の部、各中隊の分隊（全１３９個分隊）タイムで競う分隊対抗の部の４部門で優勝を争った。

結果、各部門すべてを第４中隊が制覇した。

小隊対抗の部は同中隊の第３小隊が、分隊対抗の部は、同小隊の第３分隊がそれぞれ優勝した。

優勝した第４中隊第３小隊第３分隊の高橋３曹は「練成当初は、訓練隊の練成計画についていけず悔しい思いをしたが、指導部の綿密な計画により、当日は最高のパフォーマンスを発揮することができた。今後も引き続き、練成して次回の競技会の核となり、中隊の連覇に貢献できるよう頑張りたい」と優勝の喜びを話した。

約２０kgの水缶を持ち力走

ゴール目指して全力疾走

六ヶ所で対空実射訓練
標的機に命中！
第34普通科連隊

目標を指示する組長

第34普通科連隊は７月23日から８月24日までの間、青森県六ヶ所対空射場において高射学校等の支援を受け、91式携帯地対空誘導弾（携帯ＳＡＭ）の対空射撃練度の維持向上を図る目的で「令和２年度対空実射訓練（携帯地対空誘導弾）」を実施した。

携帯ＳＡＭの射撃では、東部方面隊を代表して連隊の１コ射撃組が実施し、直進飛行する標的機（ＲＣＡＴ）に命中させ、訓練成果を遺憾なく発揮した。

携帯ＳＡＭの射手を担当した第４中隊 鈴木３曹は「師団の集合訓練やシミュレーターを使用した準備訓練等により、目標捕捉から射撃に至るまで、標的の動きを見極め正確な射撃により、成果を出すことができた。この経験を活かし、今後は部隊の指導部として貢献していきたい」と感想を話した。

携帯ＳＡＭを標的機に向け発射

4中・5中・施設作業小隊が訓練検閲
豪雨の中　任務遂行
第32普通科連隊

敵戦車を待ち構える０１ＡＴＭ

第32普通科連隊は６月30日から７月３日までの間、東富士演習場において、第４中隊に対し「陣地防御における偵察警戒部隊及び予備隊としての行動」を、第５中隊に対し「陣地防御における主戦闘地域守備部隊としての行動」を、施設作業小隊に対し「陣地防御における施設作業小隊としての行動」をそれぞれ検閲課目とし、検閲を実施した。

検閲にあたり統裁官（連隊長）は「優勢な敵に対し、徹底的に生き残り、最後まで戦い抜け」、「戦闘力を徹底的に組織化せよ」、「安全管理の徹底」、「健康管理」の４点を要望した。

訓練検閲は６月30日に状況を開始し、地点指示、構想示達を行い、各中隊・小隊は関係部隊との調整を図ったのち陣地選定を開始した。

しかし、１００ミリを超える豪雨の影響を受け、演習場規定・安全管理上の観点から30日15時をもって状況を一時中止した。

７月２日、訓練場所の安全確認を終えたのちに状況再興、受閲部隊は対機甲撃破地点の再確認や、東富士演習場（大日堂北一帯）に指揮所及び除染所を開設し防御陣地を構築した。

敵機械化大隊と接触した偵察警戒部隊である第４中隊は、各統制線を設け、侵攻する戦車等に対して逐次、対機甲火力を発揮し、戦車１両・装甲人員輸送車３両を撃破して、敵の侵攻を遅滞、第５中隊は第４中隊の後退掩護を実施し、敵の進行を阻止して、３日夕、それぞれの任務を完遂し、状況を終了した。

敵の侵攻に対処する対戦車小隊

警戒・自衛戦闘を演練
練度の維持・向上を図る
第１後方支援連隊

傷病者の受入れ訓練をする衛生隊

河川の水を浄水する補給隊

第１後方支援連隊は７月13日から18日までの間、東富士演習場において行進訓練、連隊の展開地域における警戒・自衛戦闘、防御準備、防御戦闘の練成を実施し、陣地防御における後方支援連隊の練度の維持向上を図る目的で「令和２年度第２回連隊野営訓練」を実施した。

連隊は13日から15日までの間、夜間の約30㌔㍍の徒歩行進を終え、引き続き車両行進を実施し、行進間の警戒・自衛戦闘について演練した。

行進後は各部隊の野外における兵站・衛生支援等、陣地防御における連隊の一連の行動について演練し、所望の成果を収めて本訓練を終了した。

持続走競技会　１中優勝

隊員の士気の高揚・部隊の団結を強化

第１特科隊

優勝を競い合う隊員達

第１特科隊は８月26日及び28日、北富士駐屯地において、体力、精神力の向上、隊員の士気の高揚及び部隊の団結の強化を図る目的で「令和２年度隊持続走競技会」を実施した。

競技は５㌔㍍の距離を中隊対抗方式で実施するとともに、女性自衛官の部、各年齢別の部の全６部門で行い、それぞれ１位から３位までを表彰した。

競技の採点要領は、体力検定基準３㌔㍍の配点を５㌔㍍に換算して年齢に応じた採点を実施して、得点の平均点により、順位を決定した。

結果は、接戦の末、第１中隊が優勝した。また、女性自衛官の部において本部管理中隊　山田３曹が、10代・20代の部において情報中隊　野田３曹が、30代の部において本部管理中隊　前田３曹が、40代の部において第２中隊　横欠２曹が、50代の部において第３中隊　宮川１曹が１位となった。

第１特科隊長が第１中隊に優勝カップを授与

新たな識能を修得

システム通信に係る特技転換教育を実施

第１通信大隊

第１通信大隊は８月24日から９月１日までの間、師団内６個部隊の通信特技保有者41名に対して「第２回師団システム通信に係る特技転換教育」を実施した。

本教育は、今年度末のシステム通信に係る特技転換に伴い、新たな知識・技能を付与する必要性があることから、師団として通信特技保有者を対象に、第１通信大隊長を担任官として実施し、特技教育（座学）はＳｋｙｐｅを活用して遠隔地教育で実施するとともに、特技検定（術科）は参加者を限定して練馬及び北富士駐屯地で実施するなど、新型コロナウイルス感染症対策に留意して行い、参加者が特技転換に必要な知識・技能を修得したことを確認した。

Ｓｋｙｐｅを活用した各部隊への教育状況

システムネットワーク特技の検定

戦車大隊統制訓練

指揮所開設を検証

第１戦車大隊

９６式装輪装甲車を活用した指揮所の開設訓練

第１戦車大隊は令和２年６月８日から12日までの間、東富士演習場において「令和２年度第１回戦車大隊統制訓練」を実施した。

この中で大隊は、上級機甲特技検定、コンパス行進訓練、指揮所開設の検証、夜間における車両・徒歩行進訓、戦車射撃、指定充足訓練を行った。

８日及び９日に実施した上級機甲特技検定では、戦車長として必要な指揮手順について練度を評価した。

指定充足訓練においては、各駐屯地業務隊等に所属する隊員に対して救急法、広帯域多目的無線機の取り扱い、指揮所開設訓練等を実施し、部隊で必要とする知識及び技術の維持向上を図った。

また、指揮所開設の検証では、来年度の大隊検閲に向け、戦車大隊が保有する停弾堤整備用の油圧ショベル（通称：ザウルス）を活用して指揮所を半地下にするための掘削作業を実施し、完成までに必要な隊力や対空偽装の要領等について確認した。11日は第１師団長の視察を受け、本検証を終えた。

上級機甲特技検定

訓練最終日は、第３戦闘射場で戦車射撃を実施し、射撃技術の向上を図った。

５日間の訓練では、前半は暑さが厳しく、後半は暴風雨と濃霧の厳しい天候であったが、大隊としての練成目標を達成し、所望の成果を収めた。

六ケ所・静内で対空実射訓練

「一撃必墜」の精神

第１高射特科大隊

第１高射特科大隊は８月７日から27日の間、北海道東千歳駐屯地及び静内対空射撃場において高射学校等の支援を受け、第１後方支援連隊の協力の下、81式短距離地対空誘導弾（短ＳＡＭ）及び93式近距離地対空誘導弾（近ＳＡＭ）の射撃練度の維持向上を図る目的で「令和２年度地対空誘導弾対空実射訓練」を実施するとともに、指揮情報中隊及び高射中隊に対して実射訓練検閲を実施した。

１高大は８月６日、大隊本部の一部を先行班として駒門駐屯地を出発、７日に指揮情報中隊及び高射中隊が、10日に大隊本部及び指揮小隊が出発して11日には全部隊が東千歳駐屯地へ集結を完了した。じ後、東千歳駐屯地において11日に高射中隊の短ＳＡＭが、12日に指揮情報中隊の近ＳＡＭが模擬実射訓練を行うとともに、14日からは静内対空射場に進入し、近ＳＡＭの射撃準備訓練を実施した。

16日、早朝から近ＳＡＭが完了すると、射場内より高速標的機（ＣＨＡＫ３）が上空に舞い上がった。指揮情報中隊の近ＳＡＭは、迅速に目標を捜索、捕捉・追随し、目標に命中した。

近ＳＡＭ発射手の長野３曹は「射撃当日は班長、発射手、捜索手との連携の結果、要撃は無事に成功し、発射手としての自信が沸き、緊張感が一気に開放された。発射班の班員として、これまでの訓練成果が本番に発揮でき大変満足している。今回の経験を活かしてこれからも日々の練成に励んでいきたい」と感想を話した。

近ＳＡＭの射撃

短ＳＡＭの射撃準備

各種事態に応ずる偵察小隊の行動を評価

第３偵察小隊訓練検閲

第１偵察隊

第１偵察隊は７月15日から20日までの間、練馬駐屯地、立川駐屯地、朝霞訓練場及び生地において「令和２年度第３偵察小隊訓練検閲」を実施した。

訓練検閲は各種事態に応ずる偵察小隊の行動として、平素の段階から治安出動下令下における行動を練馬駐屯地、立川駐屯地、朝霞訓練場及び同地に至る生地において一連の状況下で実施した。

第３偵察小隊は、目標に設定している「地域及び目標物の偵察」のため前進し、地形及び敵情の解明を実施して任務を完遂し、所望の成果を収め、第３偵察小隊訓練検閲を終了した。

目標地域へ前進する第３偵察小隊

目標地域の警戒

汚染地域における偵察活動を評価

偵察小隊訓練検閲

第１特殊武器防護隊

第１特殊武器防護隊は７月６日から13日までの間「第３回隊練成訓練」を、20日から26日までの間「第４回隊練成訓練」を実施した。

第３回隊練成訓練では偵察小隊の訓練検閲を実施し、汚染地域における偵察要領の練度を評価するとともに、除染小隊の汚染地域の除染及び部隊に対する除染の練成訓練を実施した。

偵察小隊は、作戦地域の偵察において、電波地誌を確認しつつ、作戦間の通信に着意して汚染地域の特定に資する偵察活動を実施し、任務を達成した。

第４回隊練成訓練では、師団の陣地防御における特殊武器防護隊の行動を演練して、築城、化学活動、指揮所活動等の練度向上を図るとともに、第１師団訓練検閲に向けて、所望の成果を得た。

徒歩行進訓練

ＦＨ－７０を除染

多用途ヘリコプターからの機関銃射撃訓練

射撃練度の向上図る

第１飛行隊

第１飛行隊は６月24日から７月４日までの間、陸上自衛隊佐多射場において「令和２年度多用途ヘリコプターからの機関銃射撃訓練」を実施した。

第１飛行隊の多用途ヘリコプター（ＵＨ－１Ｊ）は６月24日に立川飛行場を離陸、明野、徳島を経由して新田原の飛行場に向かう計画であったが、悪天候の影響を受け、途中防府の飛行場を経由し、６月28日に佐多射場に移動を完了した。

じ後、７月２日までの間、34連隊等と協同してＵＨ－１Ｊからの機関銃射撃訓練を実施した。

本訓練に初めて参加した第１飛行隊の副操縦士　中前３尉は「ドアを開放した状態で射手を載せて飛行することから、射手が射撃する間は速度・高度・方向を寸分の狂いもなく一定にすることを強く意識して操縦しました。射手が検定に合格した時の喜びは天にも昇る心地でした」と話した。

射手として参加した第１飛行隊の射手　櫻木３曹は「ドアを開放した状態で洋上での実弾射撃をすることは、かなりの緊張と不安がありましたが、これまでの訓練を思い出しながら冷静に射撃に取り組むことができました」と感想を述べた。

ＵＨ－１Ｊから重機関銃射撃をする第１飛行隊

重機関銃を搭載する隊員

令和２年度職種訓練現況視察

１音の訓練状況を確認

第１音楽隊

第１音楽隊は９月１日から２日までの間、練馬駐屯地体育館及び合奏場において「令和２年度職種訓練現況視察」を受察した。

１日、合奏場において、第１音楽隊長が中央音楽隊長に対して状況報告を行うとともに、合奏場の施設について説明した。

また、練馬駐屯地体育館において、儀じょう訓練及び合奏訓練を実施した。

訓練を視察した中央音楽隊長からは「儀じょう訓練での節度ある動作に威容を感じられ良かった。また合奏訓練での『君が代』は、日本古来の和楽器の音色をイメージして抑揚をつけるともっと良くなる」と助言があった。

２日は、各業務担当者等、区分ごとに懇談を行い、１音の更なる吹奏能力の向上の資とした。

合奏訓練で「君が代」を吹奏

儀じょう訓練で「栄誉礼」を吹奏

CSMコーナー

大久保准尉　第７代師団最先任へ
若林准尉は第５陸曹教育隊

上番の挨拶をする
大久保最先任上級曹長

肘タッチで挨拶する
若林前最先任上級曹長

８月１日付で第７代師団最先任上級曹長に大久保准尉が上番した。

大久保准尉は34普連で最先任上級曹長として勤務したのち、この度、師団最先任上級曹長に上番した。上番に当たり大久保准尉は『『強固な連携』『情報共有』を重視して、准曹士の皆さんと共に努力精進する事を心に誓う」と力強く述べた。

なお７月31日付で下番した若林前最先任上級曹長は、第５陸曹教育隊（久留米）へ栄転した。

令和２年度第１回先任上級曹長集合訓練
先任上級曹長の識能向上を図る

師団長訓話

下意上達の実習として指揮官に意見具申をする隊員

第１師団は６月29日から７月３日の間、練馬駐屯地において先任上級曹長の地位・役割及び心構えについて教育するとともに、先任上級曹長として必要な識能の向上を図る目的で「令和２年度第１回先任上級曹長集合訓練」を実施した。

本訓練は第１師団として初の試みであり、その第１期生として師団の中隊先任上級曹長及び上番予定者の計14人が参加した。

訓練は上級曹長制度の理解の他、効果的な指揮官補佐及び准曹士の育成など11の課目について、５日間の訓練を通して同期生との様々なグループ研究に取組み、自己の職務を分析し、先任上級曹長としての具体的な目標を導き出した。

また師団長訓話において師団長は「本当に強い第１師団を支えるのは中隊であり、先任上級曹長への期待は極めて大である。指揮官の女房役、隊員たちの母親役、事務室の長、そして人生の先輩の役割を自覚しつつ、自ら成長して欲しい」と述べた。

学生長として参加した１通大本部管理中隊増山准尉は「先任上級曹長の重要性を改めて認識することができた。この訓練で得た横の繋がりを大切にして、自分たちで考え、部隊を盛り上げていきたい」と所見を述べた。

学生長に集合訓練旗を授与

第１偵察隊

最先任上級曹長
准陸尉　中村　元則

８月１日付で第１偵察隊先任上級曹長を拝命した中村准尉です。

部隊の先任上級曹長に上番することの重責に、改めて身の引き締まる思いです。

第１偵察隊は創隊以来50年以上にわたり、師団長の耳、目として日本の首都防衛を担い、厳しい訓練に励み、様々な任務を遂行してきました。

先日、第１偵察隊の「あゆみ」として作成した創隊記念史を見て思った事を少し話したいと思います。

昭和37年に第１偵察隊が発足し、当時の写真は勿論白黒で、着ている戦闘服も違えば、装備品の偵察用オートも、ホンダのドリーム２５０という今では絶版となっているバイクを使用していました。

市街地における偵察を教育

水路潜入後の偵察要領を教育

人や装備品が変わり、時代も変化して行く中で、昔も今も変わらないものが一つありました。それは我々の行っている訓練です。車両による長距離機動訓練や、降り続く雨の中の斥候訓練、寒く冷たい闇に震えながらの偵察監視訓練、こうした厳しい訓練を重ね、第１偵察隊は団結強固にして任務を完遂してきました。これはまぎれもなく偵察隊の伝統です。

私は先輩方から脈々と伝わる伝統を継承するとともに、不易流行の理念を基に、先任上級曹長として高い使命感と強い責任感をもって、全力を尽くす覚悟です。

退官者紹介

第１高射特科大隊

副大隊長
２等陸佐
川上　健二

第32普通科連隊

第１中隊
１陸曹
川原　仁

新着任部隊長紹介

第32普通科連隊長

鹿児島県 出身
１等陸佐
木場　幸一

第１偵察隊長

熊本県 出身
２等陸佐
中冨　秀春

第１特科隊長

東京都 出身
１等陸佐
大塚　慎太郎

第１飛行隊長

福島県 出身
２等陸佐
松山　康二

隊員家族紹介

「９歳と６歳の娘から父へ」

第34普通科連隊　本部管理中隊　曹士業務陸曹
弘田２曹　長女・次女

お父さんへ
いつも大変なお仕事を頑張ってくれてありがとう。
疲れているのに私たちのためにおいしいご飯を作ってくれたり、縄跳び、鉄棒、かけっこと色々なことを教えてくれるやさしいお父さん。
お休みの日は、公園に行ったり、一緒に走ったり、とても楽しいよ。いつもお父さんが頑張って仕事してくれるから、家族みんなの生活がとても楽しくて幸せです。
お父さんのやさしい笑顔が大好きです。これからも身体に気をつけてお仕事がんばってね！
ずっと、ずーっと大好きだよ。

大好きなお父さんと一緒に

「頑張れ、高校球児！」

第１戦車大隊 第２中隊 苫米地２曹

我が家には三人の子供がいます。中でも高校一年の長男は、小学四年から野球を始め、三度の飯より野球好きな生粋の野球バカです。恵まれた大きな体で、誰が見てもポジションはキャッチャーと分るでしょう。
この４月、野球部の寮に入寮し、野球に集中できる環境となりました。長男にとっても私にとっても大好きな野球ができる環境を幸せに思います。まずは、高校野球の頂点である甲子園を目標とし、そのためには何が必要であるかを考え、頑張ってもらいたいです。ただの野球バカだけではその頂点には立つことはできません。日々の鍛錬、技術、仲間との信頼や絆、運、全てを掴み取り頂点に立ってもらいたいです。それが私の目標でもあり、そのためにできる限りのサポートをしていきたいです。

親元を離れて高校野球に励む長男

第１師団 情報保全ポスター 優秀作品

第１師団は８月27日、情報保全ポスターの優秀作品に選出された２名の隊員に対して、師団長表彰を実施した。
情報保全ポスターは、情報保全強調期間中（７月13日から８月７日）に、隊員の情報保全意識の高揚、保全事案防止等に資する目的で募集し、各隷下部隊は厳選した１点を師団司令部第２部保全班に提出。司令部での厳正な審査の結果、第34普通科連隊 第３中隊 迫川３曹及び第１特殊武器防護隊 中尾３曹の作品が選出され師団長から表彰状を授与された。
受賞作品は情報保全意識の高揚のため各部隊で掲示される。

第１特殊武器防護隊
除染小隊
中尾３曹

第３４普通科連隊
第３中隊
迫川３曹

第１師団　フォロワー募集中！！
http://www.mod.go.jp/gsdf/eae/1d/index.html
第１師団　検索

隊員自主募集ご協力のお願い
一般曹候補生・自衛官候補生の応募資格が改正！
18歳以上33未満の男女
自分たちの「同僚・後輩は自らの手で」
隊員の皆様のご協力が必要です。

悩み相談	０１２０－１８４８－３８
心理相談（第１師団心理幹部）	８－３１－２２１５
法律相談（第１師団法務官）	８－３１－２２６６
倫理相談（第１師団法務官）	８－３１－２２６５
「うつ」隊員等のサポート	０１２０－８３４－９３９

【お知らせ】
開館時間は平日の9時から15時までです。
お申し込みは2週間前までにご連絡下さい。